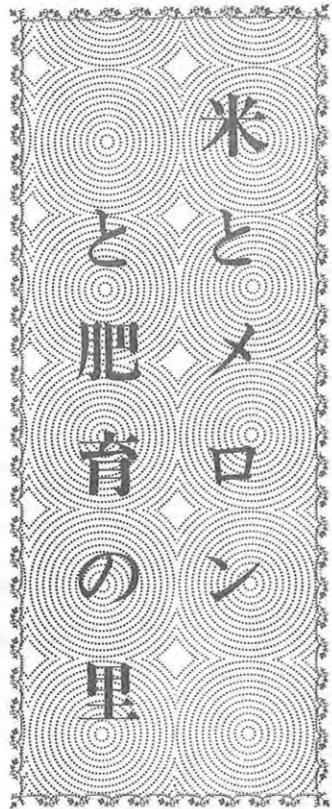
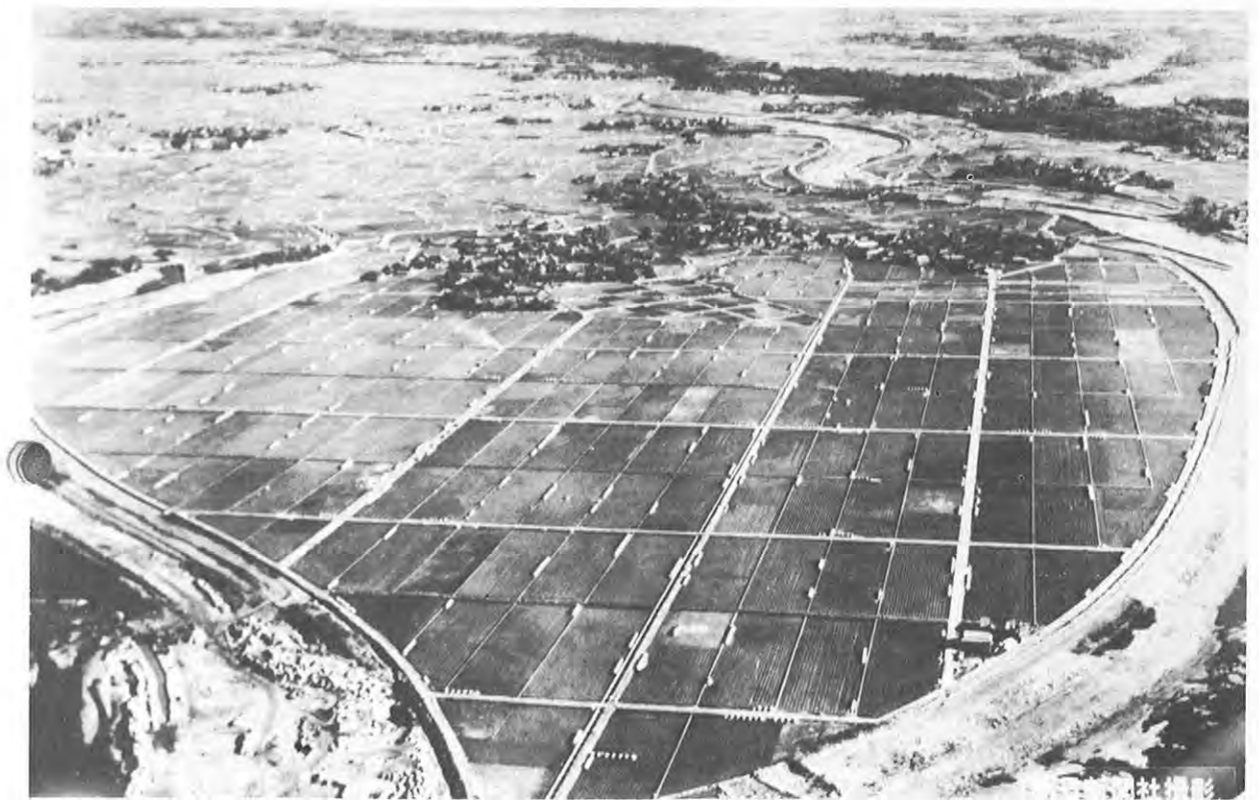


「米とメロンと肥育の里」七城町のキ  
 ャッチフレーズである。  
 七城町は、熊本県の北部に位置し、熊  
 本市から二十五キロ、菊池市から四キロ  
 の地点にあり、東は菊池市、西は内田川  
 を隔てて鹿本郡鹿本町及び合志川を隔て  
 て鹿本郡植木町に、南は泗水町、北は鹿  
 本郡菊鹿町に接している。総面積一九・九  
 一平方キロの町です。  
 本町は、昭和二十九年十一月一日、旧  
 岩、加茂川、清泉の三カ村が合併し七城  
 村として発足、昭和四十三年十一月一日  
 から町制を施行七城町となったもので  
 す。  
 「七城」の町名は一般から募集して決  
 められたもので、当町には、九州の豪族  
 菊池氏が菊池城を本城として菊池地方を  
 支配していたとき、その守りとして作っ  
 た十八の外城のうち七カ城跡（神尾、  
 台、増永、正光寺、馬渡、亀尾、打越）  
 が点在していたところから七城と名づけ  
 られたものです。又、昭和四十六年には  
 七城温泉が開発され、菊池川河畔の静か  
 な温泉郷としてにぎわっております。

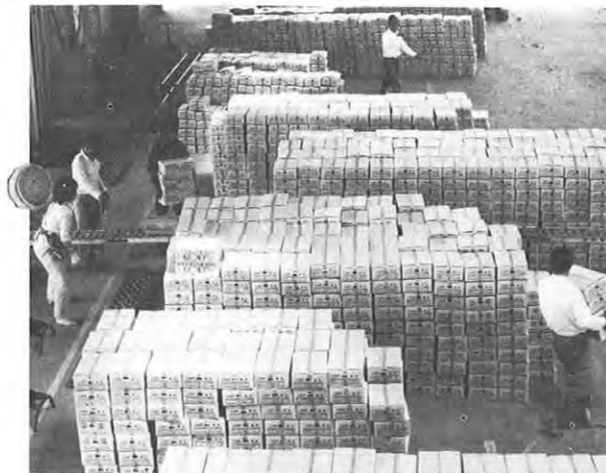
七城の中央部は菊池川の中流に属し、  
 標高三十メートル前後の平坦地で水田地  
 帯を形成しており、菊池米の産地として  
 全国に知られております。一方、南部及  
 び北部には標高七十〜八十メートルの台  
 地があって畑地帯を形成しております。  
 道路は、町の中央部を南北に菊池・植  
 木を結ぶ県道が、南部に熊本、山鹿を経  
 ぶ県道、北部には大津、菊池、山鹿を経  
 て福岡県瀬高町に至る国道三二五号線が  
 東西に走りそれぞれ定期バスが運行され  
 ております。又、国道三号線（豊田）ま  
 で十分、九州縦貫高速道植木インターま  
 で十五分の距離にあり、熊本は言うまで  
 もなく、北九州、遠くは阪神地区、東京  
 方面へのトラック輸送が可能になり、農  
 産物等の輸送に恵まれた条件下にありま  
 す。



町の基幹産業は農業であり、耕地地面  
 積、農家数とも全体の八〇%以上を占  
 め、米、工芸作物、野菜、畜産等が農業  
 経営の基盤となっており、近年急に伸び  
 た「メロン」は、毎年六〜七億円の粗収  
 入があり、特産地としてすっかり定着し  
 ました。  
 本町では、昭和三十七年以来、農業構  
 造改善事業の一環として水田及び畑地帯  
 の基盤整備ならびに農道網が整備され、  
 生産基盤の整備開発がなされました。特  
 に、昭和四十四年度から五ヶ年計画で行  
 われた平坦地のは場整備も耕地の八五%  
 が完了しております。  
 又、昭和四十九年度からの第二次農業  
 構造改善事業では水田協業（八組合）、  
 畜産協業（三組合）等においてコンバイ  
 ンやトラクター等大型機械等が取り入れ  
 られ、他に、昭和四十九年度から野菜集  
 荷場、集乳所、大型乾燥穀物調整施設と  
 大型施設が次々と完成、基盤整備と共に  
 大型農業へと飛躍しております。今後  
 は、菊池台地水利開発事業に併行して南  
 北台地にある畑地帯の開発をはかり、畜  
 産については、県下最大の施設を誇る県  
 畜産流通センターがあり、又関連工場と  
 してプリマム工場も完成しました。こ  
 れ等に即応するためにも畜産農家の経営  
 規模拡大につとめ、畑地を中心とする複  
 合経営方式を軸として着実に前進するこ  
 とと思っております。



▲昭和44年度から5ヶ年計画で実施されたほ場整備は耕地の85%を完了しました。



▼畜産農家の経営規模は年々着実に拡大しています。



▲メロンは毎年6〜7億円の粗収入があり、特産地として定着しました。